

■各地域の重点取り組み

一関・東山地域

- 世界遺産「平泉」と狛鼻溪、厳美溪の二次交通網の整備
- 地元ガイドによる歴史の小道などの街散策
- 東京都豊島区・品川区、福島県三春町、宮城県仙台市などでの物産と観光展の開催
- 一関温泉郷や各種イベントのPR
- 栗駒山、真湯・祭時地区への誘客推進と栗駒山麓周辺市村との連携の強化
- 外国人観光客の受け入れ環境の整備
- 狛鼻溪への誘客推進と回遊対策の強化
- 農家民泊の推進

花泉・藤沢地域

- 花と泉の公園や大籠キリシタン殉教公園のPR
- 花と動物に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都江東区での物産と観光展の開催
- 館ヶ森収穫祭などのイベント開催等による館ヶ森高原への誘客推進
- 各種イベントのPR
- 農家民泊の促進

大東・室根地域

- 山吹棚田や芦東山記念館のPR
- 室根山周辺で開催されるアウトドアスポーツの推進
- 室根山観光やひこばえの森の情報発信
- 神奈川県藤沢市、埼玉県吉川市での物産と観光展の開催
- 各種イベントのPR
- 農家民泊の促進

千厩・川崎地域

- 千厩酒のくら交流施設への誘客推進
- 夫婦石PRのための事業実施
- 東京都世田谷区・町田市、神奈川県川崎市での物産と観光展の開催
- 道の駅かわさきを活用した情報発信
- 各種イベントのPR
- 農家民泊の推進

■計画の推進

国では、平成28年を「東北観光復興元年」として、新たな交付金の創設など各種施策を展開し、インバウンドを呼び込む取組を強化しており、本市の観光を伸展させる動きがある中で、これらの機会を活かしながらか本計画を着実に推進するには、市民、観光関係団体等および行政が共に連携し、観光をめぐる環境の変化に対応した有効な取り組みを行っていくことが必要です。

このため、それぞれが担う役割を明確にし、観光振興計画が着実に推進されるよう取り組みます。

■市民・観光関係団体等・DMO・行政の協働

【市民の役割】

観光は、交流人口の増大や地域産品の消費拡大、新たな雇用の創出などにより、地域づくり・地域経済に大きな効果を生み出す産業であることを、市民一人ひとりが認識することが求められています。また、観光客から感動を呼び、リピーターとなつていただけるようおもてなしの心を持って観光客を迎え入れるため、積極的な声かけや、住む場所、観光地の清掃活動、観光ガイド、各種イベントへの参加など本市の魅力アップにつながる身近な活動に積極的に取り組むことが期待されます。

【観光関係団体等の役割】

観光関係団体、観光事業者等は観光の最前線でお客様にサービスを提供することから、観光振興の担い手として重要な役割を果たす立場にあります。観光客のニーズに対応した観光プランの提供に取り組むとともに各種サービスの向上やおもてなし力の向上にもこれまで以上に積極的に取り組むことが期待されます。また、インバウンドを呼び込むための無料Wi-Fi環境の整備促進やキャッシュレス観光に対応したクレジットカード決済対応、食メニューの多言語化、洋式トイレへの改修などに取り組むことが期待されます。

恵まれた自然と悠久の歴史が育む
いやしの里いちのせき

【DMOの役割】

本市と平泉町において、観光振興による地域づくりを推進する組織である「一関・平泉地域連携DMO(仮称)」の設立を目指して検討を行っています。このDMOの役割としては、行政や宿泊、飲食、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、交通事業、環境事業等の関連事業者や地域住民等の多様な関係者を調整し、地域全体での戦略的な観光地域づくりや複数地域の広域的な連携を主導していくことが求められます。

【行政の役割】

市は、観光客の誘致推進を図るため、地域の観光資源の分析や観光動向の把握を行い、地域の魅力を最大限に活かす観光地域づくりに努めるとともに、国・県はもとより農業、食産業、文化、スポーツ、商工団体など幅広い産業団体と地域住民との連携による観光振興施策を円滑に推進し、観光基盤づくりの強化や地域経済の活性化等に努めることが求められています。また、観光客誘致につながるイベントを開催し、観光の質を高めるなど、市民と観光客双方が満足する、賑わいあふれる観光地域づくりに取り組みます。

一関市の観光振興・交流人口の増加・地域産業の振興

一関市観光振興計画概要版(平成29年度~33年度)

発行：一関市 編集：商工労働部商業観光課 〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号
TEL 0191-21-2111(代) FAX0191-31-3037 <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp>



一関市観光振興計画
(平成29年度~33年度)

概要版

一関市観光振興計画策定の目的

観光は、人の交流や生活文化、地域の自然を来訪者に堪能していただくことはもちろんのこと、交流の中で地域文化の再発見や新たな魅力づくりに貢献し、それらは多くの産業に波及効果を及ぼす裾野の広い産業であり、活力ある地域づくりや地域経済の活性化による雇用創出につながるものと期待されています。

本市は、東北のほぼ中心に位置し、仙台市と盛岡市の中間でもあり、古くから交通の要衝として栄え、岩手県南、宮城県北エリアの中核都市として発展してきました。

広い市域の中には、西方に栗駒国立公園栗駒山や名勝・天然記念物厳美溪、東方には県立自然公園室根山や名勝・日本百景狛鼻溪、館ヶ森高原エリアなどの優れた観光資源に恵まれています。また、隣接した平泉町には、ユネスコ世界文化遺産に登録された中尊寺や毛越寺などの「平泉の文化遺産」があり、多くの観光客が訪れています。

さらには、古くから伝わる室根神社特別大祭や大東大原水かけ祭り、広く全国に発信している一関夏まつり、全国地ビールフェスティバルin一関、かわさき夏まつり花火大会、藤沢野焼祭、一関・平泉バルーンフェスティバル、全国ご当地もちサミットin一関のほか、せんまや夜市、唐梅館絵巻など数多くのイベントが開催されています。

このように本市および周辺には、多彩な観光資源がありますが、これらを現下の観光動向を踏まえながら的確に発信し交流人口の増加を図り、本市の観光はもとより地域産業の振興に資するための指針として本計画を策定するものです。



一関市観光振興計画の策定について

■計画の位置づけ

本計画は、平成28年度から平成37年度までの10年間のまちづくりの将来像を定めた「一関市総合計画基本構想」に掲げる「みつげよう 育てよう 郷土の宝 いのち輝く一関」の実現に向け、この基本構想に基づき平成28年度から平成32年度までのまちづくりの方向性を定めた「一関市総合計画前期基本計画」を上位計画とする観光部門計画として、本市観光振興の方向性とその施策を明らかにするものです。

また、策定にあたって、平成24年度に策定された「一関市観光振興計画」を「後期観光振興計画」と位置づけて策定することとします。

■計画の期間

本計画は、平成29年度から平成33年度までの5年を計画期間とします。

基本理念

恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里 いちのせき

本計画の目標指標

平成27年度現状値

- ・年間観光入込客数 約220万人回
- ・外国人観光入込客数 9,097人回

平成33年度目標値

- ・年間観光入込客数 231万人回(約5%増)
- ・外国人観光入込客数 27,000人回(約3倍増)

一関市観光振興計画 (平成29年度～33年度)

【一関市の観光の課題】

(後期観光振興計画を踏まえた課題)

1 平泉との連携強化による一関ブランドの発信

- 平泉・狛鼻溪間の二次交通の利用促進
- 骨寺村荘園交流館の利用促進と更なる骨寺村荘園遺跡を活用した事業の充実や展開
- 平泉とのゆかりを活かした連携強化及び情報発信

2 観光資源の活用と情報提供の充実

- 「一関のもち食文化」を生かした来訪ルート設定、戦略的なプロモーション展開等による誘客の促進、訪日外国人の受入環境の整備
- 観光資源である「一関のもち」のブランド化
- 集客力維持に向けた全国地ビールフェスティバルin一関の創意工夫
- JR一関駅構内への観光案内所の設置
- 観光客満足度調査をもとにした観光振興
- 着地型旅行の推進体制の整備
- 須川・真湯・祭時地区の新たな観光資源の発掘、観光ルートの開発
- 真湯温泉センターのサービスの質の向上
- 祭時スノーランドと祭時温泉を活用した観光客滞在メニューの設定
- 栗駒焼石ほっとラインのPR
- ICT(情報通信技術)の進展による多様な情報発信ツールでの情報提供
- 北海道新幹線開業を好機とした北海道からの誘客推進

3 観光に関する受け入れ態勢の整備

- 観光ボランティアガイドの確保と育成
- 既存案内標識の見直しと新たな案内看板の設置
- 岩手県南、宮城県北の市町との連携による広域観光ルートの整備
- 平泉からの誘客推進のための二次交通網の整備
- 国際会議等の誘致

4 広域連携の推進

- 広域連携組織への積極的な関与
- 観光客誘致につながる広域観光振興事業の共同実施

基本方針

1 平泉との連携強化による一関ブランドの発信

2 観光資源の活用と情報提供の充実

3 観光に関する受け入れ態勢の整備

4 広域連携の推進

5 インバウンド誘客の推進

観光振興戦略

- 1 平泉と主要観光地をつなぐルートを活かした一関ブランドの発信
- 2 骨寺村荘園遺跡の活用
- 3 平泉とのゆかりを活かした観光振興
- 4 一関・平泉地域連携DMO(仮称)の設立

- 1 地域資源の発掘と活用
- 2 観光情報の充実
- 3 体験交流型観光の推進
- 4 須川・真湯・祭時地区の観光資源の活用
- 5 誘客の推進

- 1 おもてなし意識の醸成とガイドの確保
- 2 観光施設、公共施設等の整備
- 3 観光ルートの整備
- 4 二次交通網の構築
- 5 国際会議等誘致方策の検討

- 1 行政区域の枠を越えた連携
- 2 地域資源の相互利用

- 1 外国人に対する情報発信の強化
- 2 外国人観光客の受入環境の整備
- 3 国際会議等誘致方策の検討

重点的取り組み

- (1) 平泉と狛鼻溪、厳美溪など主要観光地を結ぶルートの情報発信と交通機関の利用促進
- (2) 一関市内と沿岸地域を結ぶ観光ルートの提案と情報発信
- (3) 一関・平泉地域特産品の魅力的な観光資源化による誘客推進と観光地ブランドの確立
- (4) 骨寺村荘園遺跡の観光情報発信の強化と体験イベントの拡充
- (5) 平泉とのゆかりを活かした情報発信
- (6) 一関・平泉地域連携DMO(仮称)の設立

- (1) 市内の観光資源の再発掘と街なか観光の振興
- (2) 観光ホームページの充実
- (3) 「食」をテーマとした情報発信の強化
- (4) 特色あるイベント情報の全国発信
- (5) 体験交流型観光の推進
- (6) 須川・真湯・祭時地区の情報発信と誘客推進
- (7) 大型観光キャンペーン等と連動した「旬」の情報発信機能の充実
- (8) 北海道を対象とした教育旅行の誘客推進

- (1) 市民主体のおもてなし意識の醸成
- (2) ボランティアガイドの育成
- (3) 看板などの観光案内機能の充実
- (4) 広域観光ルートの開発
- (5) 二次交通網の充実
- (6) 国際会議等誘致方策の検討

- (1) 広域観光を進めるための関係市町村との連携促進
- (2) 姉妹都市等との交流の強化
- (3) 広域連携組織への参画

- (1) 海外への情報発信の強化
- (2) 外国人観光客の受入意識の醸成
- (3) 外国人観光客の受入環境の充実